行動の先に見えるものは?

生徒指導主事 中陣和代



色とりどりのちぎり紙を貼って作った「ほかほかことばでえがおいっぱい」の 15 文字。中抜き文字のプリントを土台にしているものの、色も貼り方も不揃いで、できばえは様々です。制作したのは 1 年生から6 年生のボランティアで、一文字一文字に味わいがあります。

12月の第2週に「ボランティアウィーク」と

称して、誰もがボランティア活動に取り組める時間を朝の帯時間に設定しました。各委員会の企画に参加するのもよし、自分でやりたいことを見付けるのもよし、もちろん「やらない」という選択肢もあります。多くの子供たちは委員会企画や自主企画の活動に取り組んでいましたが、計画委員会が募集した 15 文字の掲示物作り(生活目標のキャッチコピー)にも 30 名程の子供たちが参加してくれました。

ボランティア活動の動機付けのIつは、自分の行為の先を見つめる想像力です。自分の行いが誰のために役立つのか、どのように役立つのかを想像することが大切だと考えます。「給食のときに床に味噌汁がこぼれていました。この味噌汁はそのままにしておくとどうなるでしょう。」こんな質問をすると、子供たちからは「踏まれる」「滑って転ぶ」「カピカピになる」等の発言が聞かれました。その通りです。そして「ズックの裏についてランチルームや教室中に広がって・・・」とこちらで話を続けると「え〜、汚い」という声が。子供たちには、「そうなる前に自分のティッシュでさっと味噌汁を拭ったら、それがボランティアなんだよ。」ということを伝えました。ボランティアは特別なことではなく、身近なところにあるのです。

今回はボランティアウィークという設定で、特別感が否めませんが、すでに身近なボランティアに気付き始めた子供たちもいるようです。最初は興味本位でも、児童玄関やランチルームに掲示されたキャッチコピーを見て、誰かが温かい気持ちになってくれた

り、作業に参加してくれた子供たち に「やってよかったな」という思い が生まれたりしたら、それが今後の 行動につながっていくのではないか と期待しています。

